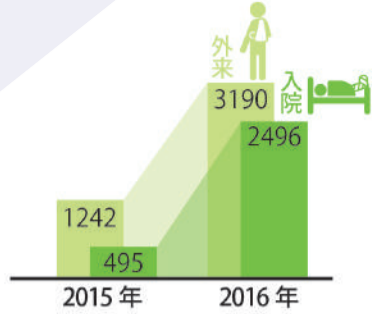


解決すべき課題にしっかり対応します！

生駒市立病院



生駒市立病院については、開院した2015年6月の外来患者数が1242人、入院患者数が495人（1日平均16.5人）だったものが、2016年3月には、外来患者が3190人、入院患者が2496人（1日平均80.5人）と大きく増加しています。

救急についても、市立病院開院後、市内の6病院の救急搬送の受け入れ件数（6月～12月：夜間・休日）は、平成26年度の675件から、平成27年度は1516件と2.2倍となっています。生駒市立病院の受入率（救急車からの要請により患者を受け入れた割合）は、市内救急患者については91%、ほぼ全ての要請にえています。

2016年3月からは常勤の麻酔医1名、4月からは常勤の整形外科医、リハビリテーション科医がそれぞれ1名着任します。医師の確保、効果的な広報、地域の診療所等との連携、接遇などの課題に一層力を入れて取り組めます。

高齢者の交通費助成



これまで生駒市では、70歳以上の方全員に交通費助成（いわゆる「いきいきカード」）を支給してきました。これは県内12市のうち生駒市だけの制度です。

私は、「いきいきカード」による高齢者への移動支援には健康・生きがいづくりなどの大きな意義があると思います。しかし、タクシーを使っても外出が難しい方には、移動支援よりもむしろ、介護人材の確保や介護福祉施策・サービスの拡充を重点的に行うべきでしょう。

また、自力で移動ができる健康な方には、認知症予防教室や健康スタンプラリーといった事業にも積極的に参加してもらい、直接的かつ効果的に健康の維持増進を図っていただきたいと考えます。

この見直しは、高齢者福祉の予算を削減するのが目的ではありません。「いきいきカード」のための予算約2億円は、高齢者福祉のために今後もしっかり確保します。その予算を活用して、移動支援が必要かつ効果的な方には引き続き交通費助成を含む移動支援を行い、それ以外の方には高齢者の心身の状態に応じて必要とされるきめ細かなサービスを展開していくことが重要と考えています。

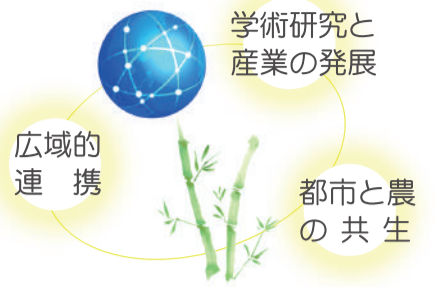
平成28年度には、市民の皆様の声を聴きながら、より細やかに議論・検討を進めてまいります。

みんなで創る日本一楽しいまち

生駒。



学研高山第2工区



平成28年3月議会で、学研高山第2工区のUR（独立行政法人都市再生機構）の所有地を買い取る議案を可決いただきました。本件については、前市長の時代から交渉を進めてきましたが、私の市長就任以後、具体的な内容について調整を重ね、このたびの取得となりました。

バブル経済の時代から、URが学研高山第2工区で進めていた2万3千人という大規模な住宅開発は、リーマンショック後の社会経済情勢をかんがみればもはや不可能であり、適当でもありません。しかし、いつまでも当該地域の活用がなされないことにより、土地の荒廃や無秩序な開発が生じている現実には早急な対応が必要です。

また、近隣の精華・西木津地区には多くの企業や研究所が移転しており、高山第2工区もこのような可能性を持つと考えています。

今回のURからの土地取得は、これらの課題に対応し、ポテンシャルを具体化するためのものです。土地の取得費も鑑定評価額の約10分の1である3億4千万円であり、適切な金額と考えています。

今後のまちづくりについては、「学術研究と産業の発展」「都市と農の再生」などを柱に、本市や社会の現状に照らして適切な形で、市民の皆様にも情報提供しながら、地権者、県などのご協力も得て、しっかりと検討を進めてまいります。

詳しくはコチラ

<http://www.city.ikoma.lg.jp/0000005509.html>
(2016年3月25日市長日記)



FBページ

WEB市長室

生駒市のPR動画はこちら！

